

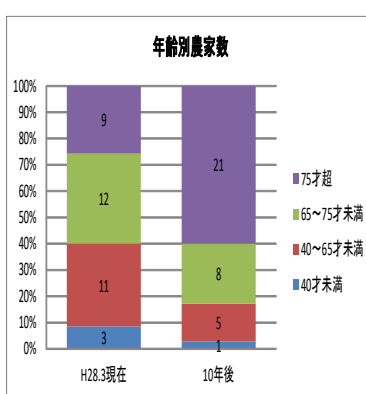
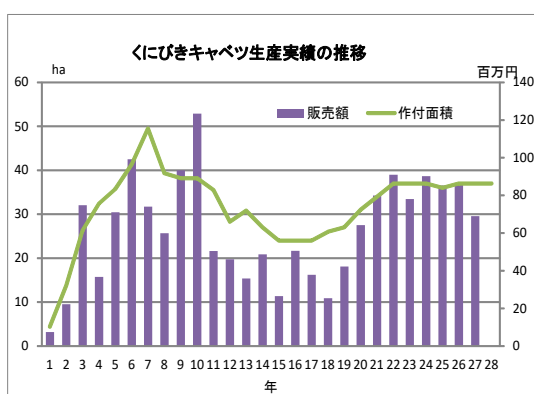
# くにびきキャベツ産地を担う新規栽培者の確保・育成

## 東部農林振興センター松江農業普及部

### 1 課題の背景とねらい

平成元年に揖屋干拓地で「くにびきキャベツ」の栽培が開始されてから 28 年が経過した。当初は順調に生産が伸び、平成 10 年には栽培面積 38ha、販売金額が 1 億 2 千万円を超えました。しかし、平成 11 年からは輸入野菜の増加による野菜価格の低迷により栽培面積が減少し、平成 15 年には 24ha まで落ち込みました。平成 20 年からは作期拡大を含め、農外企業や集落営農組織の参入など多様な担い手確保による産地再生を目指した取り組みにより回復傾向となり、平成 24 年には栽培面積 37ha まで回復しました。しかしその後は、栽培者の高齢化、後継者不足、生産量の減少等によって栽培面積、出荷量はほぼ横ばいで現在に至っています。

当初からキャベツ栽培の牽引役として産地を支えてきた中核農家も高齢化が進んで



平成	年	出来事
元年		中海干拓揖屋地区売り渡しと同時にキャベツ生産開始
3年		松江・八束くにびきキャベツ部会設立
4年		国の野菜産地指定を受ける
7年		栽培面積が49.5haまで拡大する
10年		販売額が1億2千万円を突破する
12年		輸入野菜増加の影響を受けた価格低迷により面積が減少する
20年		農外企業・集落営農組織の参入により面積増加に転じる
21年		だんだん営農塾開講(22～24年は休止)
24年		美味しまね認証制度の団体認証取得
25年		だんだん営農塾再開

おり、アンケート調査結果では、65 歳以上の栽培者の割合が約 6 割、後継者不在の割合が約 7 割、65 歳以上の栽培者の栽培面積が約 4 割となっています。このままで行くと 10 年後には、65 歳以上の栽培者の割合が 8 割を超えることになり、産地の維持が困難な状況となることから、再度くにびきキャベツ産地の維持・拡大を図るために、関係機関が既存栽培者と連携して営農研修体系を構築し、これからのくにびきキャベツ産地を担う新規栽培者の確保・育成に取り組みました。

### 2 活動の内容

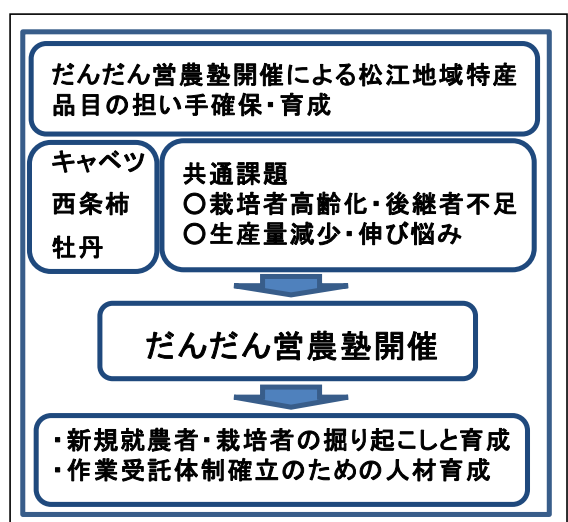
#### (1) だんだん営農塾（キャベツコース）の運営支援（H28）

（キャベツ栽培の講義と実習を通じた技術習得支援）

座学は、キャベツの栽培知識の講義や作付計画作成の他、キャベツを軸にした経営の補完品目としてスイートコーン、ブロッコリーの栽培知識・技術の講義も含めて実施しました。

実習は、実際の経営規模での栽培を通して就農について検討できるよう、干拓地の 1.2ha ほ場で、ほ場準備から収穫調製までの一連の管理作業を体験するカリキュラムとしています。

また、就農に向けた相談会の開催や、実習で共に作業を行う中で、悩みを聞くなど精神面にも配慮しました。更に、師弟関係の構築につなげるため、営農塾修了者や部会の中心的な栽培者のほ場へ出向き、作業を見学したり手伝いも行いました。

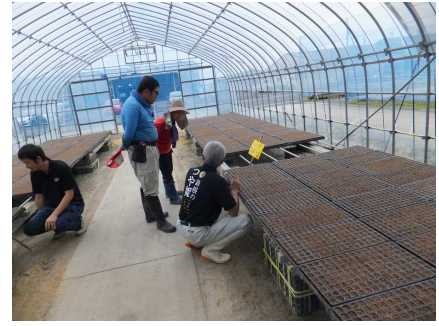




座学：作付計画作成



実習：耕耘



実習：育苗管理



実習：定植



実習：追肥



実習：調製

## (2) 先進農家における研修（営農研修）

だんだん営農塾修了後は部会の中心的な栽培者の経営を手伝いながら、本格的な営農研修に移行させ、就農に向けて最終的な準備を行います。

また、就農時には、揖屋干拓地における農地の賃借、部会所有省力機械の利用、個人機械導入への事業活用等の支援も行っています。

## 3 活動の成果

H21、H25～H28の5カ年間の「だんだん営農塾（キャベツコース）」運営の結果、修了者20名の内、5名がH28栽培実績で部会平均面積を上回る栽培規模を持ち、今後の拡大志向もある。部会の中でも中心的な栽培者として期待される存在となっています。

だんだん営農塾受講によって、修了者は既存農家やJA、市、県などとの信頼関係が構築され、相談等がしやすい環境となっています。

だんだん営農塾(キャベツコース)塾生数及び新規栽培者数(人)

	H21	H25	H26	H27	H28	計
塾生数	7	4	3	6	2	22
新規栽培者数	4	1	2	4		11(H21～H27)

## 4 残された課題と今後の展開

だんだん営農塾は、これまで着実に新規栽培者を育成し栽培面積の維持を図ってきたが、継続するには次の2つの課題解決が必要となっています。

- ①塾生が少数の場合、管理ほ場での労力負担軽減
- ②修了者、塾生の新規栽培に当たり、賃借農地の団地化と調製場の確保

また、新規栽培者確保・育成に併せて、くにびきキャベツ産地の維持拡大に向けて、経営を安定させるために、補完品目としてのスイートコーンの販路確保や、熟練作業の映像資料作成による管理作業のポイントやコツの習得、伝承を図ることとしており、県内他産地への波及も目指し、関係機関と連携し普及活動を行います。